



明日の日本に希望を託して

理事長 森 勉

東欧では国連安保理の常任理事国ロシアがウクライナの主権を認めず核による恫喝、学校・病院等公共施設の破壊、捕虜・民間人の虐殺・略奪等、戦争法規等を無視したあたかも大戦末期(?)のソ連の対日参戦の悪夢が想起されるような悪逆非道の限りを尽くしています。東アジアでは古来より秦・隋・唐・元・清等の異民族と漢・宋・明等の漢民族の国家が興亡してきましたが、現在では中華人民共和国がロシアを遙かに凌駕する大帝国として君臨し、加えて北朝鮮は核・ミサイル実験を繰り返しています。この様な戦略環境の劇的な変化はわが国の世論に衝撃を与え政府は防衛力増強に舵を切り始めました。

反撃能力を含む陸・海・空統合作戦能力の向上、サイバー・宇宙・電磁波領域における作戦能力の抜本的改善、弾薬・装備等の備蓄等による継戦能力の維持・向上、「盾と矛」という機能的役割分担から量的役割分担へ変化をもたらず日米同盟の更なる深化、民間防衛等国家全体の防衛体制強化のため政府は防衛予算を5年計画で倍増することを表明しました。

「たまに撃つ弾がないのがたまに傷」等と正面装備偏重の従来の防衛力整備を揶揄されてきましたが、今回の岸田総理の英断により真に戦える防衛体制の構築が期待できます。

陸上自衛隊は創隊以来「憲法違反」、「税金泥棒」、文書には書き難い「○○○集団」等と誹謗中傷されてきましたが、我々の先人は、地震・台風・火山等の自然災害に対する災害派遣は言うに及ばず部外工事、地域社会の行事への参加・協力等の民生協力、最近では国外においてPKO・国際緊急援助活動等を実施するとともに、戦勝国の米軍の戦術・戦法を取り入れ帝国陸軍の魂を継承した「和魂米才」とも言うべき地道なそして厳しい教育・訓練により世界有数の精強部隊を育成し、国民から最も信頼される組織としての地位を確立してきました。

ウクライナ戦争の最も重要な教訓は、如何に困難な状況になっても、国家・国民が自らの国を自らの手で守るという決意を示すことであり軍隊だけで国を守ることは出来ないことを明らかにしました。四季の移ろいのある美しく豊かな国土に千五百年以上継続した麗しきわが国を守ることは歴史と未来に対する日本人としての義務であり権利であると確信しています。新たな偕行社の活動により国民の息吹を肌で感じる所で戦う陸上自衛隊の重要性を国民に少しでも理解して頂き、わが国の防衛が確固たるものになること願うばかりです。